

菅波 茂

2011年9月24日から2日間、AMDAの主催のもとに、スリランカの旧首都であるアヌラダプラ市で仏教徒のシンハラ人、キリノッチからのヒンズー教徒であるタミル人、そしてトリンコマリからのイスラム教徒の中学生による男子のサッカーと女子によるネットボールの親善試合、各グループによる踊りと創作劇の交歓が行われた。

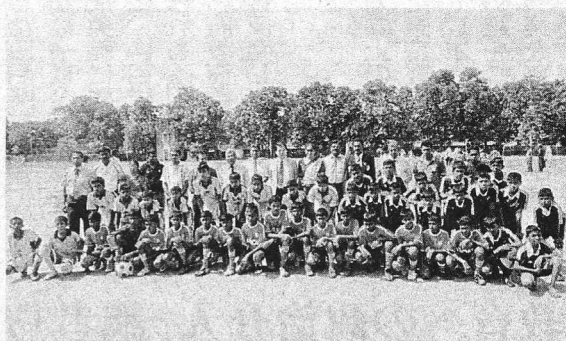
グループとの交流と交歓を喜んだ。特に、日本から参加したコスタリカ国連大学からのインターン生の石崎千里氏や川崎医療福祉大学の佐藤康介氏は大歓迎を受けた。なお、ヒンズー教、仏教、そしてイスラム教の宗教施設の見学にすべてのグループの中学生が参加した。ちなみに、アヌラダプラ市はアショカ大王の仏教使節団がスリランカで最初に布教した地である。2010年にスリランカ政府内に社会統合省が創設された。目的は2009年の内戦終結後の国内平和の維持である。最優先されることは三つのグループの大融和である。

AMDA主催の上記プログラムには社会統合省の事務次官が出席された。6年までの4年間、AMDAは南部のハンバント

た。首都であるコロンボから自動車で5時間あるいは汽車で3時間かかるアヌラダプラ市にまでである。理由を説明された。「三つのグループの大融和が我が国の最優先課題である。このようなプログラムは大歓迎である。ただ、政府主導ですとタミル人やイスラム人の緊張が高い。海外から実施していただくと各グループの警戒感が和らぐ。来年も実施してほしい」と。「次回には、日本から中学生のサッカーチームを連れてきます。また、スリランカ在住の日本人の子どもたちにも参加してもらったら、もっと効果があると思います」と応えた。

## 紛争復興支援スポーツ親善プログラムinスリランカ

サッカーの親善試合に参加した三つのグループの中学生ら



ータ(シンハラ人地区)、北部のキリノッチ(タミル人地区)、そして東部のトリンコマリ(イスラム人地区)に日の丸の旗を掲げた巡回診療チームを派遣した。明石康特別代表から要請された。「ノルウェー政府による内戦停止の仲介の後を受けて日

他のグループの子どもたちが描いた漫画には非常に興味を示した。子どもには子ども独自の周波数がある。大発見だった。1951年のサンフランシスコ講和会議でスリランカ代表は日本への賠償金請求を放棄した。「私ひと成功させたい。(AMDAグループ代表)

本政府の復興支援を決定した。日本政府が三つのグループに公平な支援をすることをアピールするため」と。AMDAの活動として、巡回診療だけでなく子どもたちを対象にした健康新聞を発行した。衛生教育として漫画を活用した。プロの漫画に関心を示さなかった子どもたちも、た子どもたちも、市民参加型人道支援外交における中学生によるスポーツの意義は3点ある。スポーツをする喜び。スポーツにより言葉を超えて異なる文化の中学生と交流する喜び。そしてスポーツを通じて国際平和に貢献できる喜びである。2012年は日本とスリランカ国交60周年の年である。第2回のスポーツ親善プログラムをぜひとも成功させたい。(AMDAグループ代表)